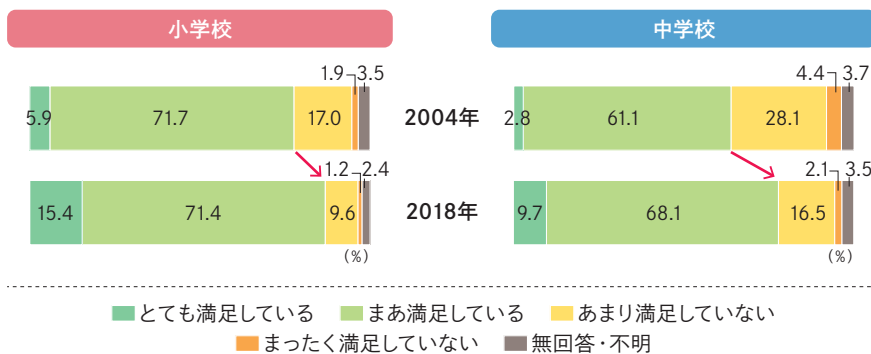


学校教育に対する保護者の満足度に影響するものとは

今回は、学校教育に対する保護者の満足度についてデータから解説します。満足度の経年変化、満足度を高めた取り組み、保護者の学校参画経験などから、学校教育に対する保護者の満足度に影響するものは何かを読み解いていきます。

1 保護者の学校教育への満足度は、小・中学校とも上昇

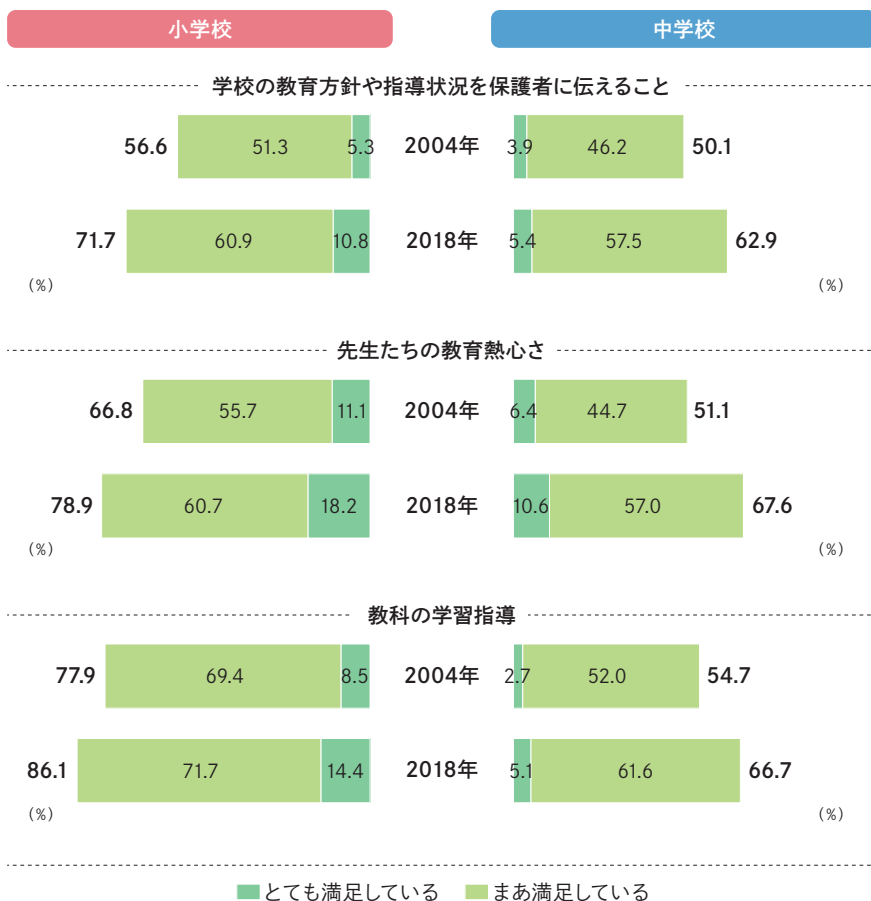
図1 学校教育に対する総合満足度（2004年との比較）



中学校も上昇して小学校の満足度に近づく

保護者に学校教育に対する総合満足度について、2004年と2018年の結果を比較した（図1）。2004年調査に比べ、2018年は「満足している」（「とても」＋「まあ」、以下同）と回答した小・中学校の保護者の割合が、大きく上昇した。特に、小学校では、「とても」の比率が大幅に（9.5ポイント）上昇した。一方、中学校では、満足度の上昇幅は小学校より大きく、両者の差が縮まってきたと言える。

図2 学校の指導や取り組みに対する満足度（2004年との比較）



学校の方針伝達や先生の熱心さが好影響

小・中学校の保護者は具体的に学校教育の「何」に満足したのだろうか。

学校の具体的な取り組みの中で、満足度に影響する14項目を尋ねた。影響度が高く、かつ、小・中学校で共通する3項目を取り上げて、満足度を見た（図2）。

それらの満足度は、2018年調査で小・中学校とも2004年調査より大きく上昇している。小学校の保護者では「学校の教育方針や指導状況を保護者に伝えること」、中学校の保護者では「先生たちの教育熱心さ」がそれぞれ15ポイント以上増えて、7割前後となった。3項目の比率の増大が、学校教育に対する総合満足度を上昇させたと考えられる。

近年、学校は「確かな学力」の向上に力を入れ、児童・生徒の主体的・対話的な学びを取り入れた授業改善に取り組んできた。また、様々な場を通して、学校の経営方針や教育方針をきちんと伝えたり、保護者が学校運営や教育活動へかかわる機会を増やしたりしてきた。学校側のこれらの努力が保護者に評価されているのだろう。

出典 「学校教育に対する保護者の意識調査 2018」

ベネッセ教育総合研究所が、朝日新聞社と共同で、全国の公立の小学2年生、小学5年生、中学2年生を持つ保護者を対象に、2004年から4～5年おき
に実施している経年調査。第4回は2017年12月～2018年1月に実施。最大で14年間の保護者の学校教育に対する意識の変化を見ることができる。

◎詳細は下記ウェブサイトから「調査・研究データ」をご覧ください。

<https://berd.benesse.jp/> または

データ解説

ベネッセ教育総合研究所
初等中等教育研究室長・首席研究員

邵 勤風

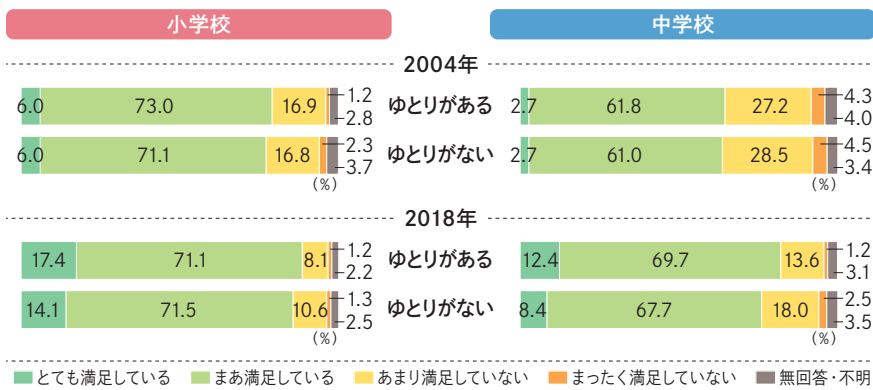
しょう・きんふう



初等中等教育領域を中心に、子ども・保護者・教員の意識や実態に関する調査研究を担当。子どもの発達を踏まえ、学びの連続性を保障するための適切な環境のあり方に関心を持つ。

2 中学校では、家庭の経済状況により満足度の差が広がった

図3 学校教育に対する総合満足度（経済状況別 2004年との比較）

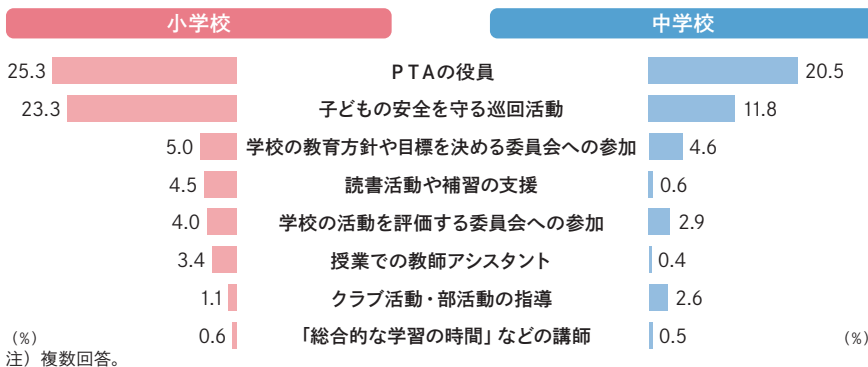


注) 「ゆとりがある」は、「あなたの生活には経済的にどの程度ゆとりがありますか」という質問に「ゆとりがある」「多少はゆとりがある」と回答した保護者。「ゆとりがない」は、「ゆとりがない」「あまりゆとりがない」と回答した保護者。

次に、家庭の経済状況ごとの満足度を見た（図3）。2004年調査では、小・中学校とも、「ゆとりがある」「ゆとりがない」の家庭間での差はあまり見られなかった。しかし、2018年調査は、中学校で、「ゆとりがある」家庭の満足度の伸びが大きく、結果的に、「ゆとりがある」「ゆとりがない」の家庭の間で差が拡大した。「ゆとりがある」家庭では、より学校の取り組みを理解し、評価していると思われる。なお、小学校の保護者は、差があまり拡大していない。今後は経済的に恵まれない家庭に、学校の教育活動への理解をいかに高めていくかが課題と言える。

3 小学校では、保護者の学校参画経験が総合満足度に影響

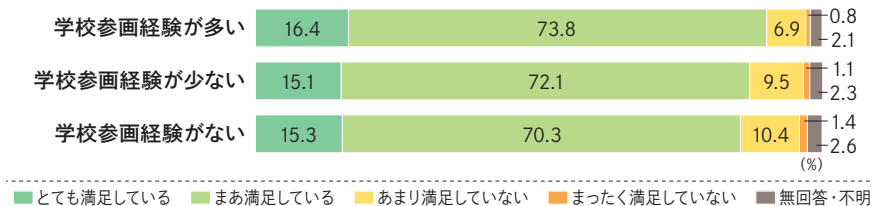
図4 保護者の学校参画の1年間の経験（2018年）



注) 複数回答。

「学校の教育方針や指導状況を保護者に伝えること」が満足度に影響を与える（図2）一方、保護者自身の「何」が満足度に影響するのだろうか。図4で保護者自身の学校参画経験を見ると、小・中学校の保護者とも「PTAの役員」「子どもの安全を守る巡回活動」が多く、1～2割を占めた。ほかは1割未満で、全体的には保護者の学校参画経験が多いとは言えない状況だ。

図5 保護者の学校参画経験の度合いと学校満足度との関係（小学校 2018年）



注) 学校参画の経験に関する8項目のうち、0個選択→学校参画経験がない(4,442人)、1個選択→学校参画経験が少ない(1,997人)、2個以上選択→学校参画経験が多い(961人)の3群を作成。

そして、保護者の学校参画経験の度合いと満足度の関係を見たところ（図5）、小学校の保護者で学校参画経験が多いほど、学校教育への満足度が高い傾向が見られた。参画により、学校教育への理解が進み、満足度が上がるのだろう。

一方、中学校の保護者には、そういった傾向が見られなかった。中学校の保護者では、教科指導など学校参画経験以外の影響がより強いと考えられる。